

2025年度（2026年3月期）

決算説明資料

2026年5月15日

保土谷化学工業株式会社

証券コード：4112（東証プライム）

FY2025

1. 2025年度 決算概要（連結）
2. 各セグメントの主要製品
セグメント別 業績推移・動向
3. 2026年度業績予想および配当予想

1.

2025年度 決算概要（連結）

2.

各セグメントの主要製品
セグメント別 業績推移・動向

3.

2026年度業績予想および配当予想

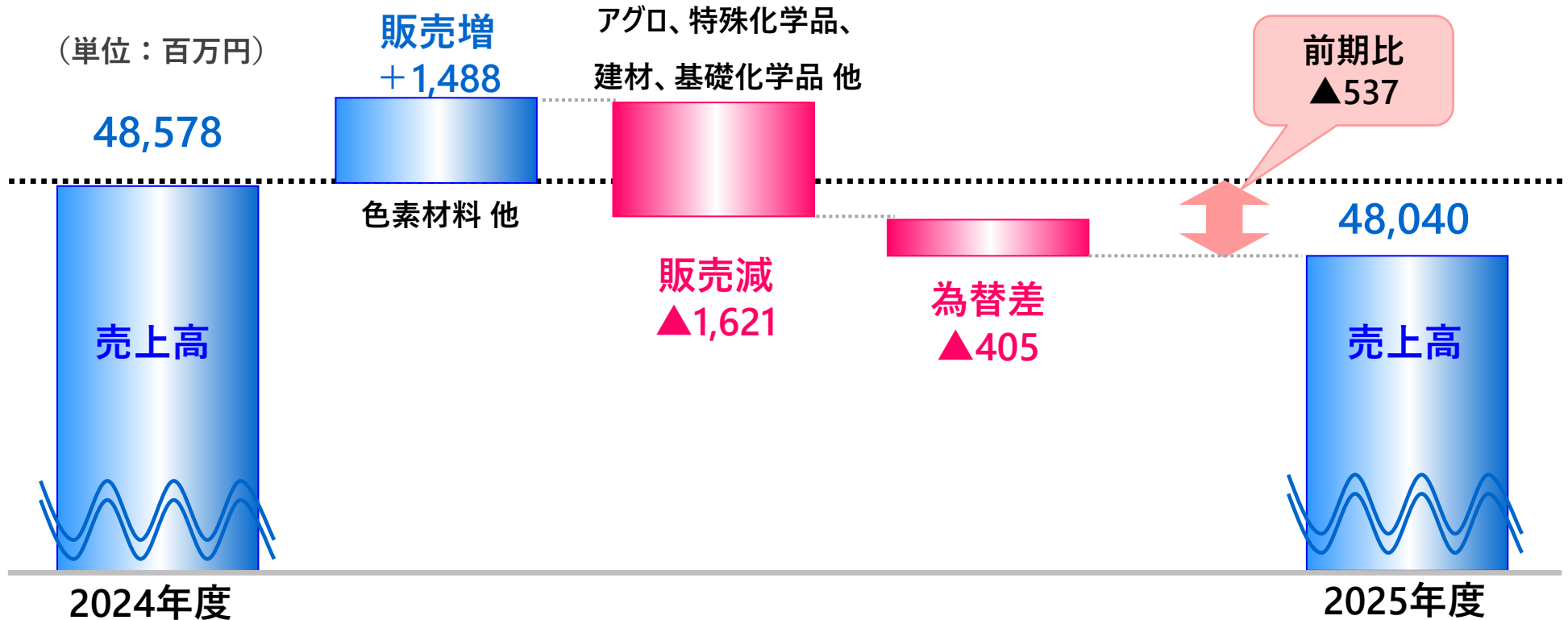
< 2025年4月1日～2026年3月31日 >

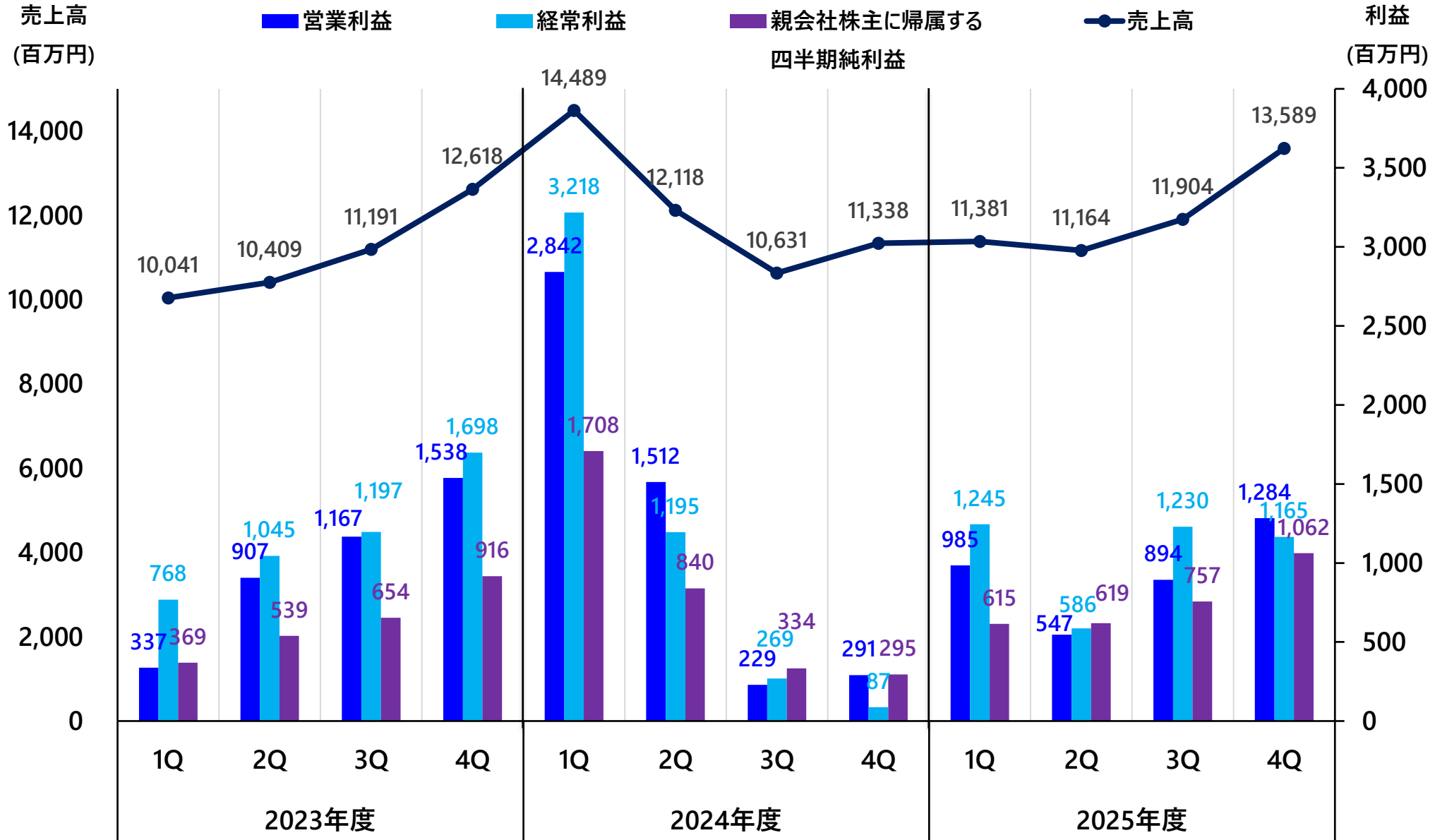
連結経営成績 (金額単位：百万円)	2024年度 利益率(%)		2025年度 利益率(%)		前期比 増減		2025年度 業績予想 <通期> 2026/4/27
	増減額	増減率(%)	増減額	増減率(%)	増減額	増減率(%)	
売上高	48,578	-	48,040	-	▲537	▲1.1	48,000
営業利益	4,875	10.0	3,711	7.7	▲1,164	▲23.9	3,700
経常利益	4,770	9.8	4,228	8.8	▲541	▲11.4	4,200
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,178	6.5	3,054	6.4	▲124	▲3.9	3,000

	2024年度	2025年度	為替レート (期中平均)	2024年度	2025年度
1株当たり 当期純利益	200.04 円 銭	192.07 円 銭	USD / JPY	152.60	151.10
			KRW / JPY	0.1092	0.1063

注) 当社は、2025年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
 1株当たり当期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、算定しております。

機能性色素セグメントにおける色素材料等の販売は増加したものの、機能性樹脂、アグロサイエンスおよび基礎化学品セグメントでの販売減少により、前期比537百万円減（1.1%減）の48,040百万円になりました。





連結貸借対照表 (百万円)	2024年度 連結会計年度 (2025年3月31日)	2025年度 連結会計年度 (2026年3月31日)	前期比 増減
総 資 産 (現 金 及 び 預 金)	79,858 (10,774)	86,413 (10,137)	+ 6,554 (▲637)
純 資 産 (株 主 資 本) (自 己 資 本)	58,530 (40,737) (48,601)	63,613 (43,303) (52,581)	+ 5,083 (+ 2,566) (+ 3,979)
自 己 資 本 比 率	60.9%	60.8%	▲0.1pt
有 利 子 負 債	8,501	9,242	+ 741

連結キャッシュフロー (百万円)	2024年度 連結会計年度	2025年度 連結会計年度	前期比 増減
営 業 活 動 に よ る C F (税金等調整前当期純利益) (減価償却費)	5,669 (4,832) (3,005)	6,092 (4,594) (3,406)	+ 422 (▲237) (+ 400)
投 資 活 動 に よ る C F (定期預金の預入/払戻による増減) (固定資産の取得による支出)	▲6,548 (▲1,168) (▲5,407)	▲5,026 (1,275) (▲6,329)	+ 1,522 (+ 2,444) (▲921)
財 務 活 動 に よ る C F	▲1,882	▲694	+ 1,188
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 末 残 高	7,602	8,129	+ 526

1.

2025年度 決算概要（連結）

2.

**各セグメントの主要製品
セグメント別 業績推移・動向**

3.

2026年度業績予想および配当予想

機能性色素

有機EL他

- 発光材料、輸送材料、表面保護材料
- バイオ材料（オリゴ核酸合成）
- コピーナー用材料
- カラーフィルター用染料
- 半導体用材料（レジスト材料）



色素事業

- アルミ着色用染料
- 文具用染料
- カラートリートメント用染料
- 天然色素（食用・工業用）



機能性樹脂

機能化学品事業

- ウレタン原料（PTG、BIO-PTG、PTG-SOFTENA等）
- ホスゲン誘導体（医薬・樹脂・電子材料用中間体）
- 接着剤
- 剥離剤



建築材料事業

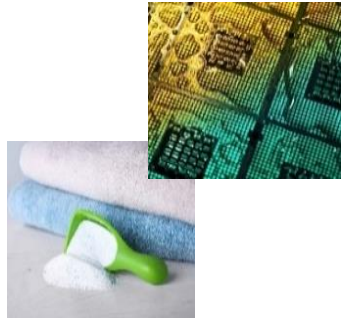
- 土木・建築用材料（ウレタン系）
- 防水・止水工事



基礎化学品

パーオキシサイド事業

- 過酸化水素
- 過炭酸ナトリウム
- 過酢酸（除菌用、食添用）
- 工業薬品



アグロ

農薬事業

- 除草剤
- 殺虫剤
- 殺菌剤
- 農業資材（酸素供給剤）



物流関連

物流関連事業

- 倉庫業（危険物/一般品）
横浜営業所、郡山営業所、南陽営業所
- 貨物利用運送取扱業
- ISOタンクコンテナ保管事業

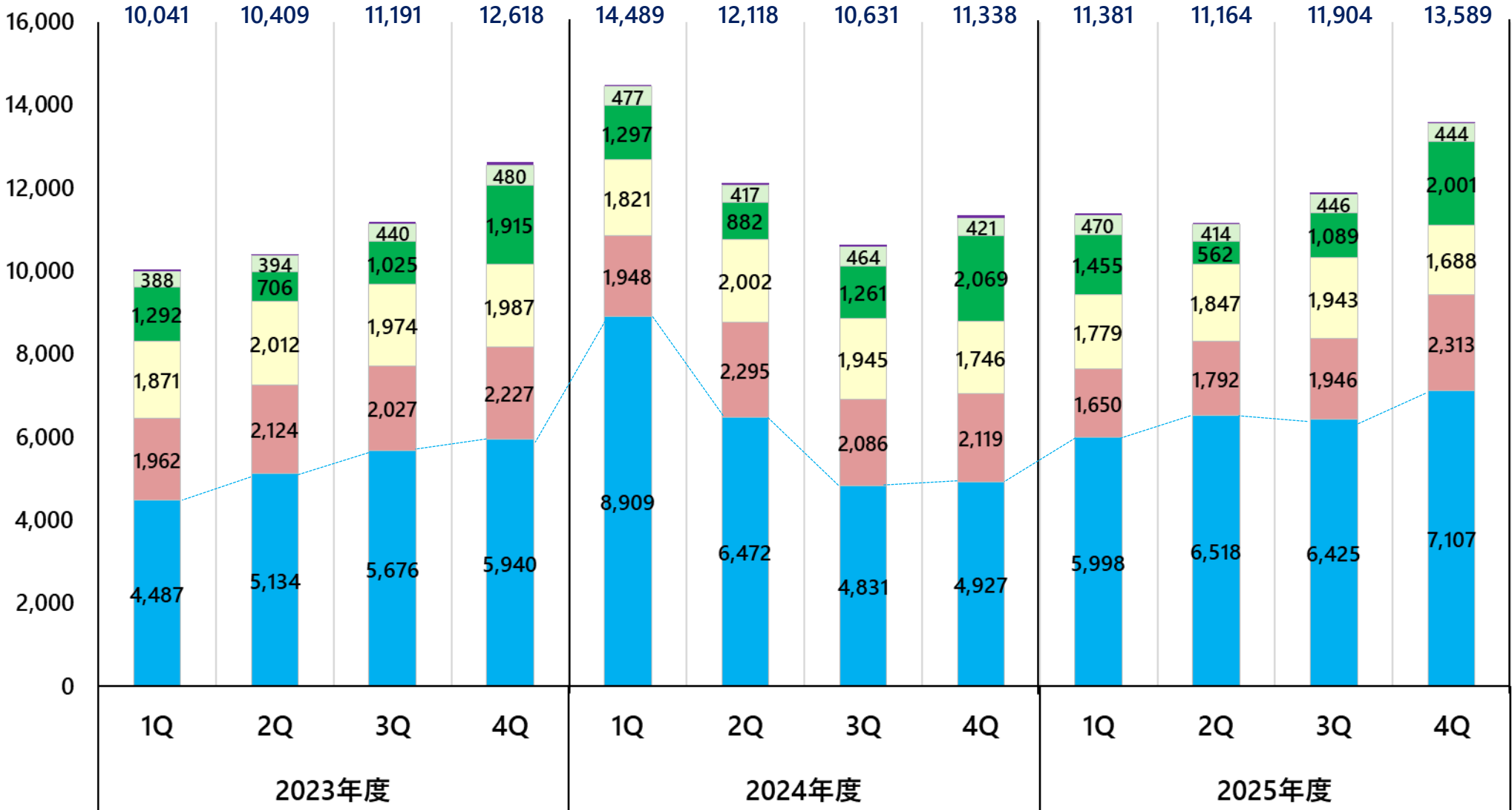


セグメント別 売上高 (百万円)	2023年度	2024年度	2025年度	前期比 増減
機能性色素	21,238	25,141	26,049	+ 908
機能性樹脂	8,341	8,450	7,702	▲747
基礎化学品	7,846	7,515	7,258	▲256
アグロサイエンス	4,940	5,510	5,108	▲402
物流関連	1,704	1,780	1,775	▲4
その他	189	180	144	▲35
合計	44,261	48,578	48,040	▲537

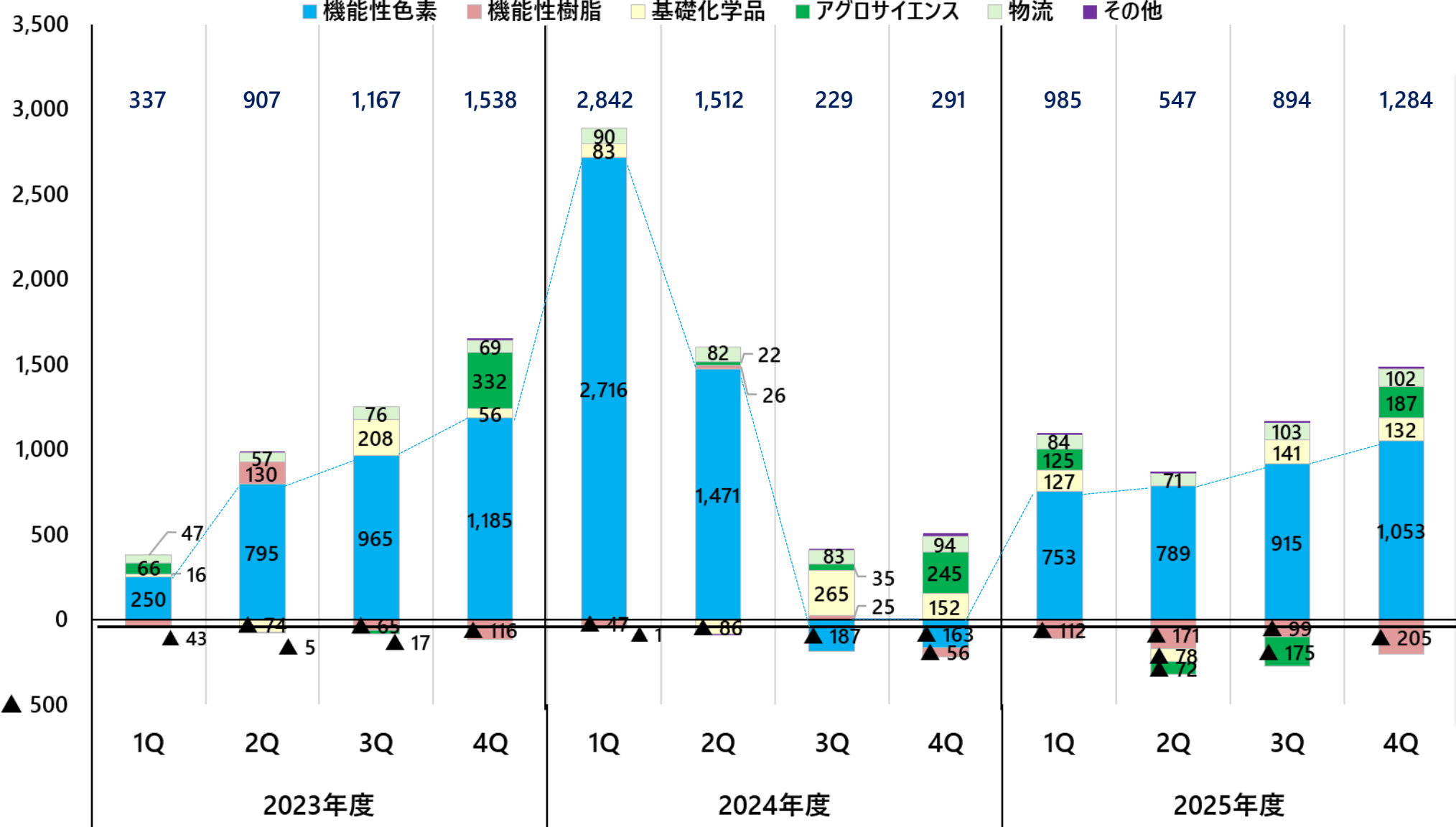
セグメント別 営業利益 (百万円)	2023年度	2024年度	2025年度	前期比 増減
機能性色素	3,197	3,838	3,512	▲325
機能性樹脂	▲94	▲51	▲589	▲537
基礎化学品	207	414	323	▲90
アグロサイエンス	376	302	65	▲236
物流関連	250	351	361	+ 10
その他	14	20	37	+ 16
合計	3,951	4,875	3,711	▲1,164

(百万円)

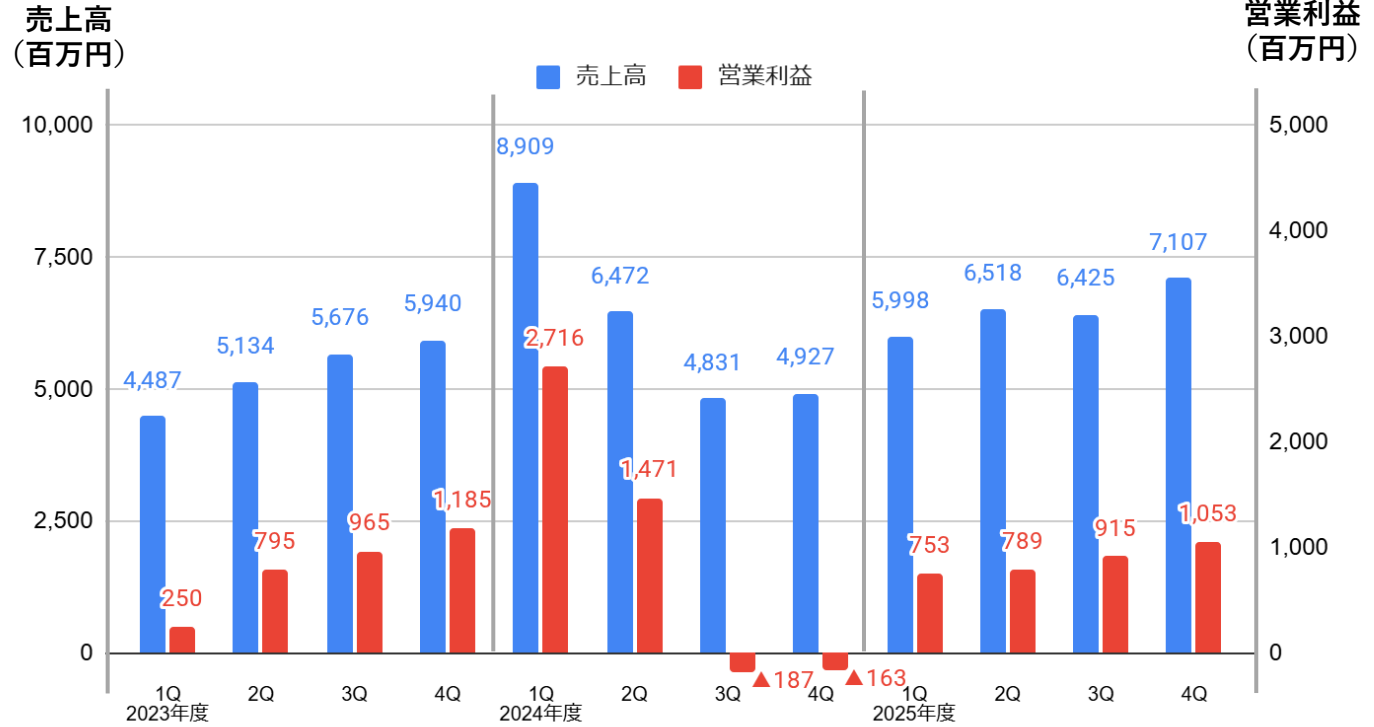
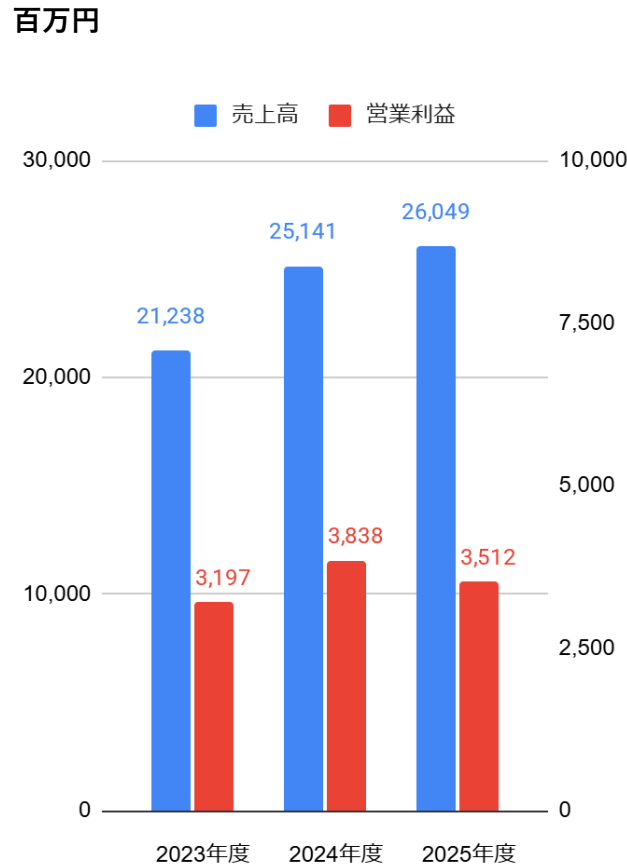
■ 機能性色素 ■ 機能性樹脂 ■ 基礎化学品 ■ アグロサイエンス ■ 物流 ■ その他



(百万円)



累計

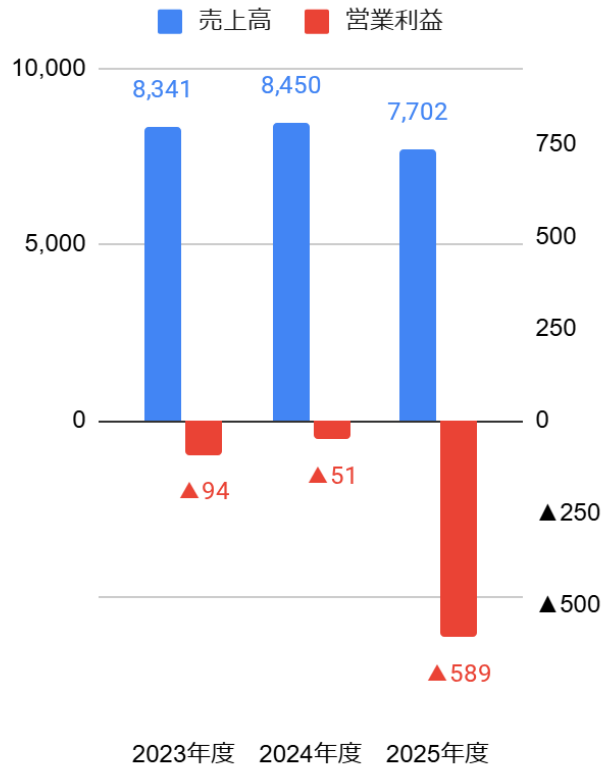


各事業の動向

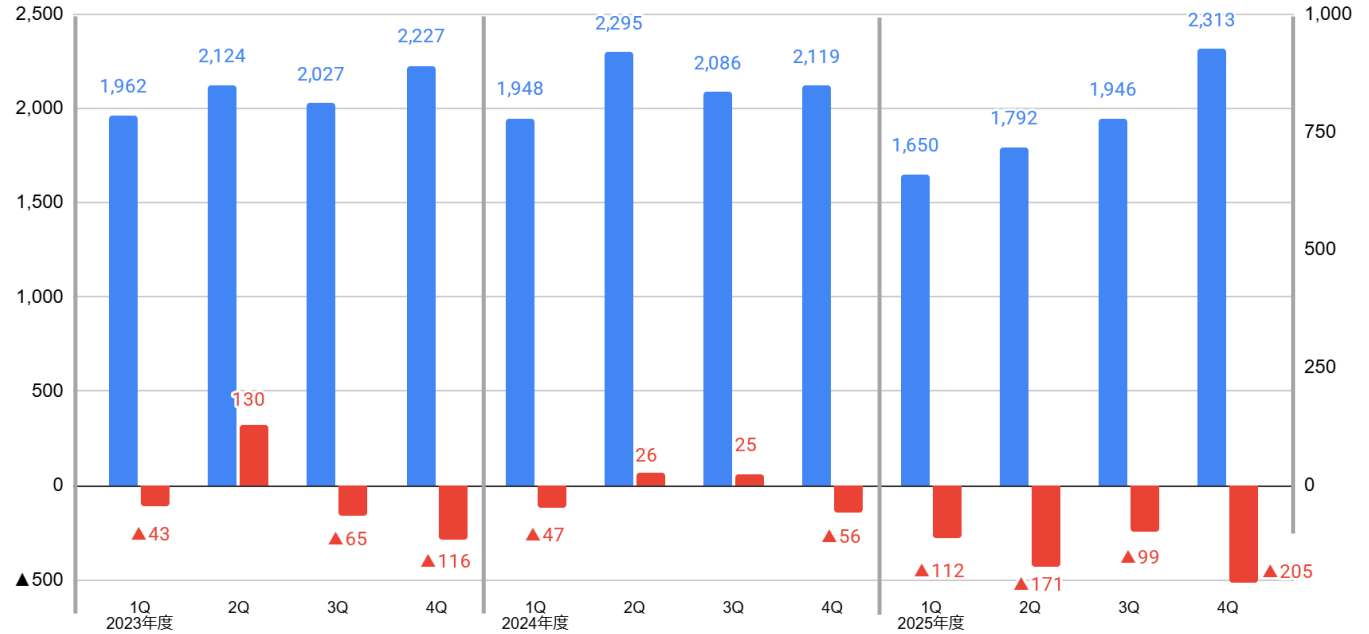
- **【有機EL材料事業】**は、スマートフォン向け等の需要に加え、BIO材料のPCR診断キット用材料や健康機能食品用の需要も堅調に推移し、前期並みとなりました。
- **【色素材料事業】**は、アルミ着色用染料等の需要増加により、大幅な増収となりました。
- **【イメージング材料事業】**は、一部顧客の在庫調整により、プリンター向け材料の需要が減少し、大幅な減収となりました。
- 以上の結果、当セグメントの売上高は、前期比908百万円増（3.6%増）の26,049百万円となりました。

累計

百万円


 売上高
 (百万円)

■ 売上高 ■ 営業利益

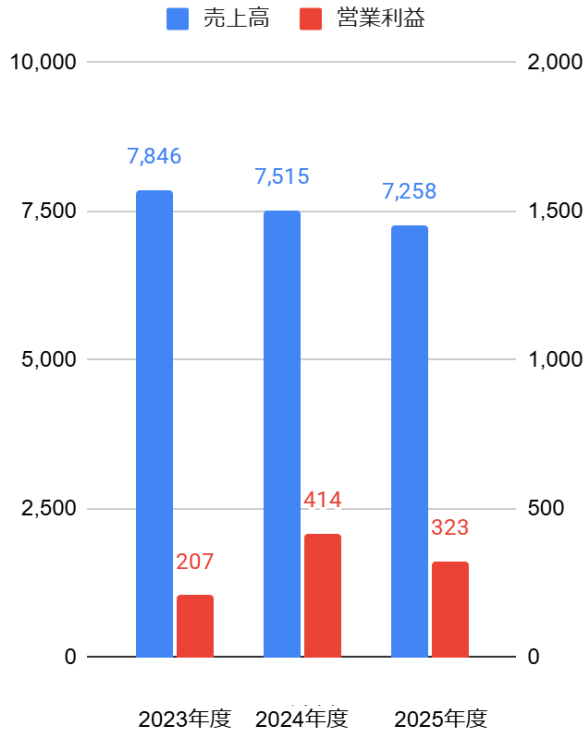
 営業利益
 (百万円)


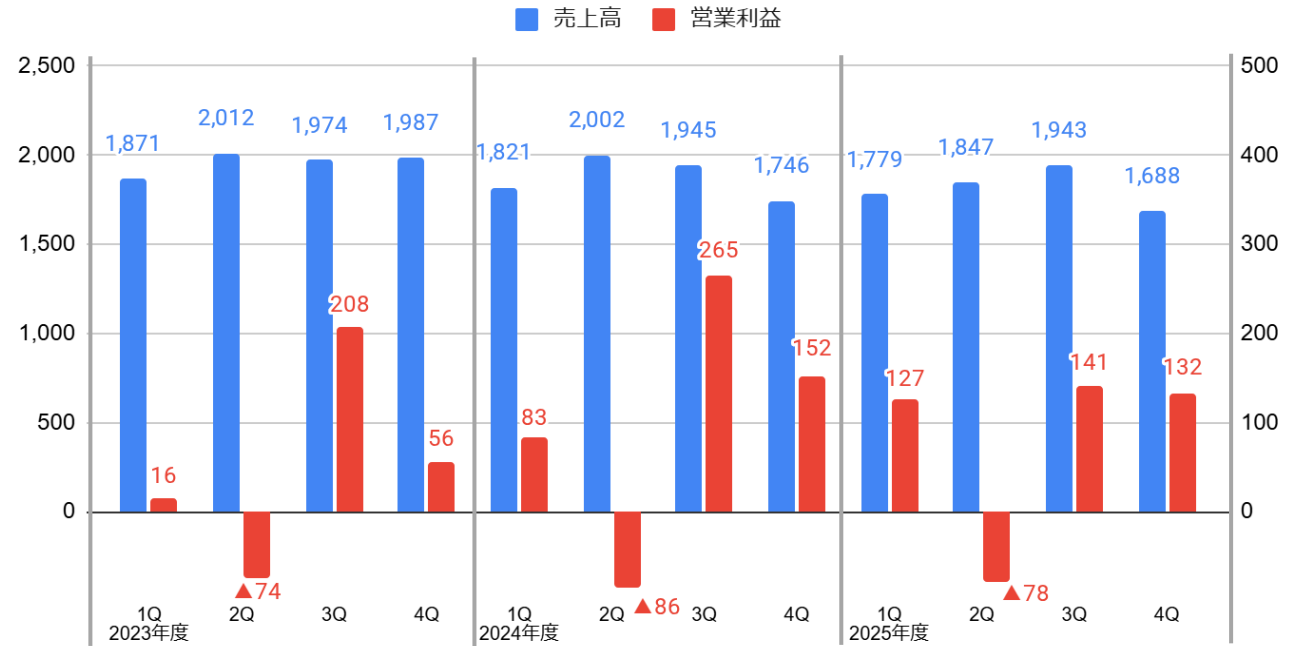
各事業の動向

- 【樹脂材料事業】は、新製品等の需要増加があったものの、ウレタン材料の需要減少により、減収となりました。
- 【建築材料事業】は、ウレタン防水工事の受注減少等により、減収となりました。
- 【特殊化学品事業】は、剥離材向け及び医薬向けにおいて、販売先での在庫調整等により、減収となりました。
- 以上の結果、当セグメントの売上高は、前期比747百万円減（8.8%減）の7,702百万円となりました。

累計

百万円


 売上高
 (百万円)

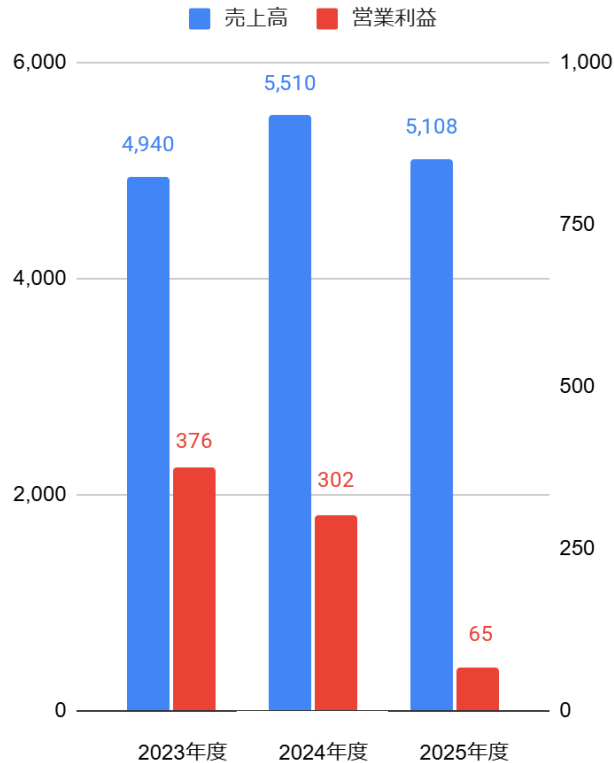
 営業利益
 (百万円)


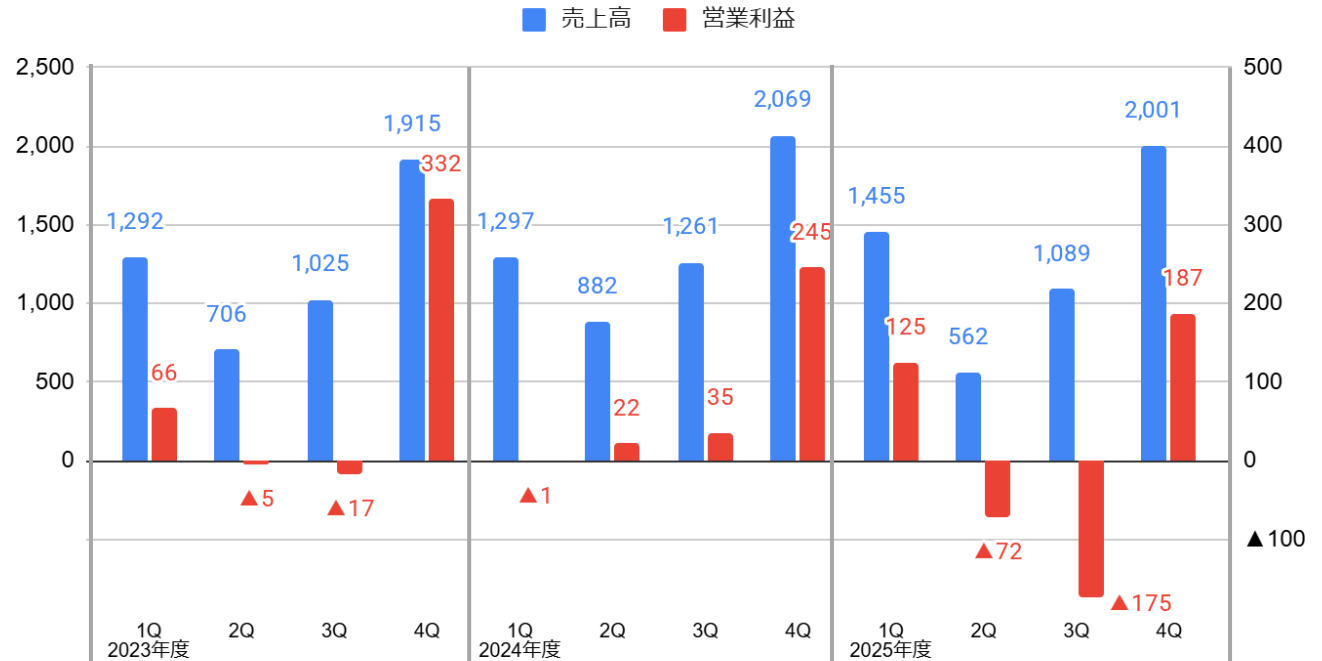
各事業の動向

- 【過酸化水素】は、紙パルプ向けの販売が減少したものの、半導体向けの需要増加により、前期並みとなりました。
- 【過炭酸ナトリウム】は、販売先での在庫調整により、減収となりました。
- 以上の結果、当セグメントの売上高は、前期比256百万円減（3.4%減）の7,258百万円となりました。

累計

百万円


 売上高
 (百万円)

 営業利益
 (百万円)


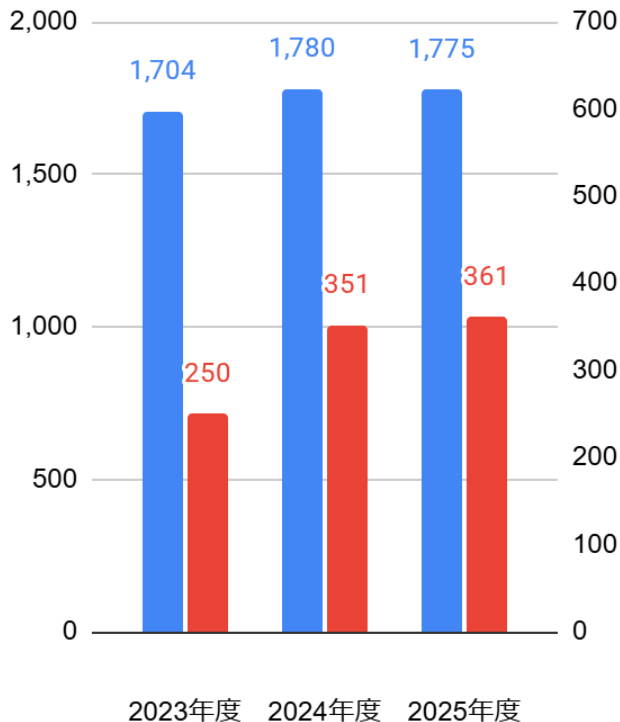
各事業の動向

- 【除草剤】は、ゴルフ場向けや家庭園芸向けで販売先での在庫調整の影響により、減収となりました。
- 以上の結果、当セグメントの売上高は、前期比402百万円減（7.3%減）の5,108百万円となりました。

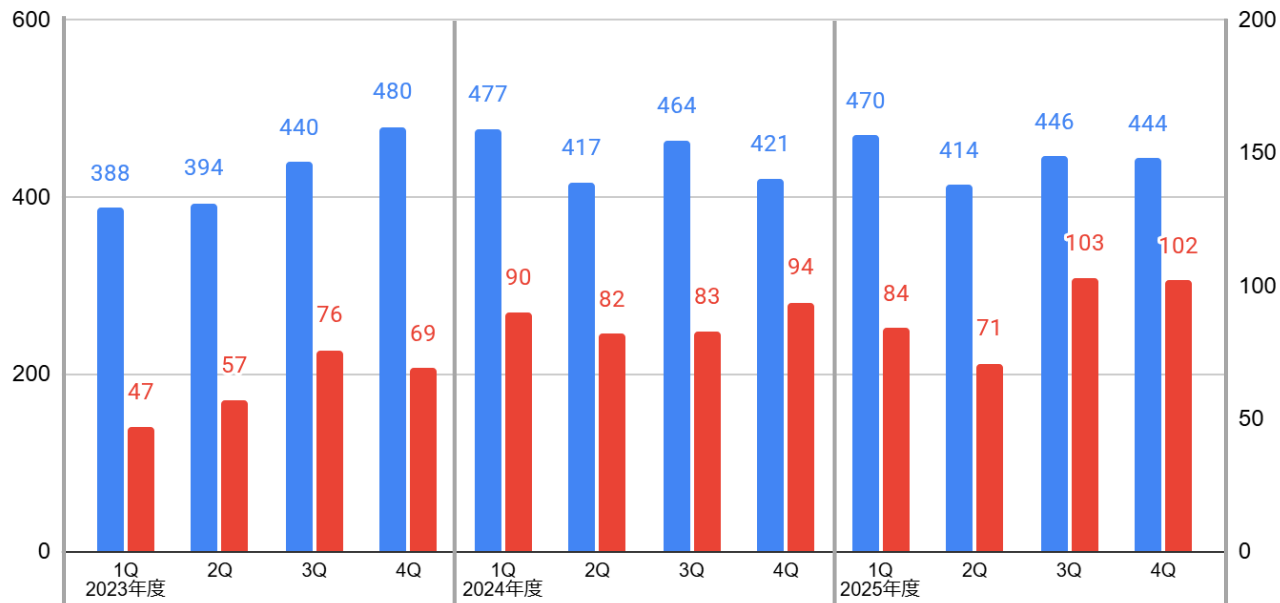
累計

百万円

■ 売上高 ■ 営業利益


 売上高
(百万円)

■ 売上高 ■ 営業利益


 営業利益
(百万円)

各事業の動向

- 輸出入向けの荷動きが鈍かったものの、ISOタンクコンテナの取り扱いが増加し、前期並みとなりました。
- 以上の結果、当セグメントの売上高は、前期比4百万円減（0.2%減）の1,775百万円となりました。

1.

2025年度 決算概要（連結）

2.

各セグメントの主要製品
セグメント別 業績推移・動向

3.

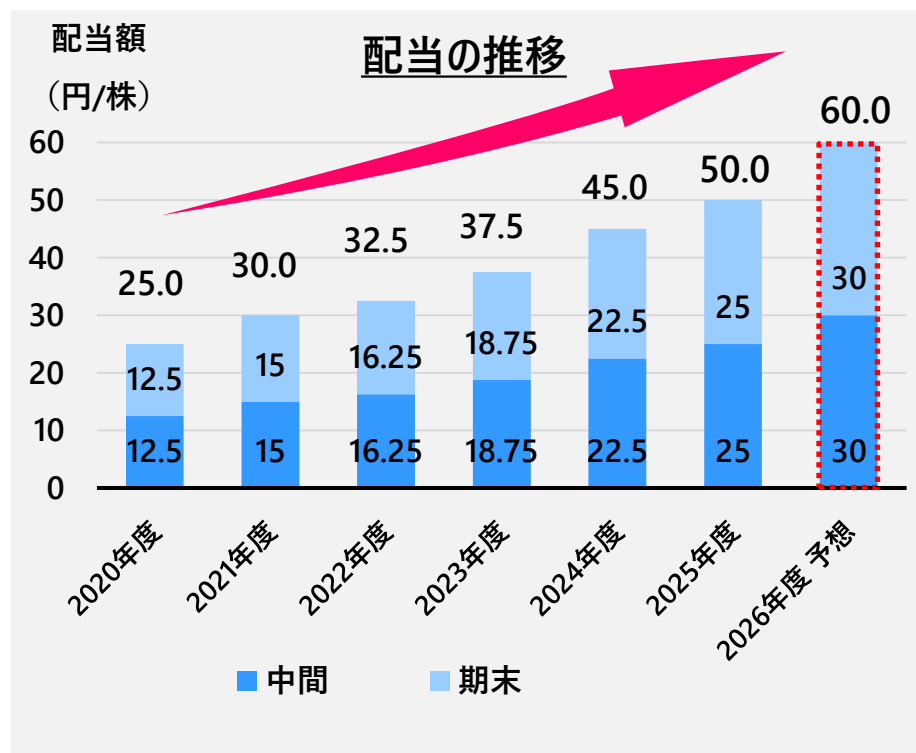
2026年度業績予想および配当予想

- 今後の見通しにつきましては、緊迫化する中東情勢を背景に、原燃料価格の高騰や物流網の混乱、景気減速への懸念など、先行き不透明な状況が続くものと見込んでおります。
- 次期の業績予想につきましては、事態の長期化を想定し、原価上昇や物流コスト増、需要変動等のリスクに加え、価格適正化への取組みなど、一定程度織り込んだものとしております。具体的には、Framochem社の連結子会社化による収益への寄与により、売上高は520億円（前期比約40億円増）を見込む一方、利益面では、将来の成長に向けた企業買収に伴う一過性費用の発生に加え、前述の外部環境リスクを反映し、営業利益34億円、経常利益33億円、親会社株主に帰属する当期純利益13億円といたしました。
- 厳しい環境下ではありますが、新中期経営計画「コード 2030」の初年度として、当社グループは外部環境の変化を注視しつつ、機動的な対応を通じて、中長期的な企業価値向上に努めてまいります。

	2025年度 実績	2026年度 予想	前期比 (%表示は前期比増減率)
売上高 (百万円)	48,040	52,000	+ 3,959 (+ 8.2%)
営業利益	3,711	3,400	▲311 (▲8.4%)
営業利益率	7.7%	6.5%	▲1.2pt
経常利益	4,228	3,300	▲928 (▲22.0%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,054	1,300	▲1,754 (▲57.4%)
1株当たり 当期純利益	192.07 円 銭	81.75 円 銭	

- 配当については、株主資本配当率（DOE）の向上を長期的な課題と捉え、且つ、安定的・継続的で適正な株主還元の実施を重視し、2025年度配当は、2024年度比**5.0円増配の50.0円**としました
- 今後の事業環境等先行きについては一層不透明感が増している状況ですが、2021年度以降の増配を継続し、2026年度の年間配当は、2025年度比**10.0円増配の1株当たり60.0円**を予定しております

	2025年度 配当予想	2025年度 配当実績	2026年度 配当予想
中間	25.0円/株	25.0円/株	30.0円/株
期末	25.0円/株	25.0円/株	30.0円/株
年間	50.0円/株	50.0円/株	60.0円/株



※ 当社は2025年4月1日付で、1株につき2株の割合で**株式分割**を行っています。
 2025年4月1日以前の1株当たり配当金につきましては、**株式分割調整後の数値を表示**しています。

《 注意事項 》

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績・配当は今後様々な要因により予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

【お問い合わせ先】

保土谷化学工業株式会社

経営企画部

 03-6852-0327

 www.hodogaya.co.jp

